



第30回 日本医学会総会

2019 中部

ランチョンセミナー 13



後天性血友病Aの基礎と臨床

座長

名古屋大学医学部附属病院 輸血部 教授

松下 正 先生

演者

奈良県立医科大学小児科 教授

嶋 緑倫 先生

日時

2019年4月27日(土) 12:40~13:30

会場

名古屋学院大学 白鳥学舎 曙館1階 講義室102 (第23会場)
〒456-8612 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号

ランチョンセミナーへの参加には、整理券(無料)が必要です。
ランチョンセミナー整理券発券所で配付いたします。予定枚数終了次第締切ります。
整理券は、おひとり1枚限り、当日分のみ配付となります。整理券は、各セミナー開始後に無効となります。
※ 残数がある場合は、11時30分以降に会場前にて配付します。

■ 配布場所：名古屋国際会議場2号館1階展示室211

■ 配布時間：4月27日(土) 7:30~11:30



共催 第30回 日本医学会総会 2019 中部
ノボ ルディスク ファーマ株式会社



後天性血友病Aの基礎と臨床

奈良県立医科大学小児科 教授 嶋 緑倫 先生

後天性血友病A (acquired hemophilia A; aHA) は、非血友病者に後天的に発症する重篤かつ難治性の出血性疾患である。aHAの本態は第VIII因子 (FVIII) に対する自己抗体 (インヒビター) で、血漿中の第VIII因子が中和されるためにFVIII欠乏による出血傾向をきたす。発症年齢の第1ピークは70歳台で、第2は20～30歳台の分娩後発症を中心とする女性優位のピークである。自己免疫疾患や悪性腫瘍の基礎疾患や妊娠・分娩、薬剤投与などの要因を背景に発生することが多い。出血症状は重篤で、特に広汎な紫斑、筋肉内出血をきたす。診断は臨床症状と凝血学的検査による。確定診断はFVIII活性の低下および抗FVIIIインヒビターの検出である。止血治療にはインヒビター保有先天性血友病Aの止血治療製剤である遺伝子組み換え活性型第VII因子製剤、活性化プロトロンビン複合体製剤あるいは活性型第VII因子/第X因子複合体製剤などを使用する。インヒビターの消失をはかる免疫抑制剤としてはプレドニゾン内服が原則であるが、症例によりシクロフォスファミドも併用する。

血友病に関する製品・学術情報は下記のホームページでご覧いただけます。

www.novonordisk.co.jp
www.clubhaemophilia.jp

共催：第30回 日本医学会総会 2019 中部
ノボ ルディスク ファーマ株式会社